

平成 27 年度 学校教育自己診断の結果と分析

1 学習指導等

「学力の充実と進路希望の実現」を重点目標として取組んだ。

課題にあげていた「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目が肯定的評価 76.4% (昨年 63.6%)、「他教科の教員と話し合う機会がある」(教職員対象)の項目の肯定的評価が 74.1% (昨年 69.6%) であり、大きく成果をあげた。

一方で、「学習意欲の高い生徒に対する組織的な指導」(教職員)の肯定的評価が 87.3% (昨年 92.7%) で若干ポイントを下げている。「到達度の低い生徒に対する組織的指導」にやや重点を置いたことが影響していると思われる。

また、「先生方は分かりやすく、興味深い授業をしている」(生徒対象)の肯定的評価が 89.1% (昨年 88.8) であり、概ね昨年どおりの高評価と判断できる。

2 生徒指導等

「総合的にみて、学校は生徒の学力向上、人間的成長のために尽力していると言える」(生徒対象)の肯定的評価は 90.0 (昨年 90.9%)、平成 24 年度から課題としていた「命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒対象)の肯定的評価は 79.9% (昨年 83.0%、24 年度 53.6%) であり、昨年よりはポイントを若干下げているため、引き続いて様々な行事や研修の工夫、日常の指導により、豊かな人間性の涵養に努める。

3 学校運営

「学校運営に教職員の意見が反映されている」(教職員)の肯定的評価は 98.1% (昨年 92.7%) であり、他の 2 項目も 90% を超える。次年度も継続して、学校全体で学校目標に取り組む。